

【全体概要】

行方地域では水稻担い手への農地集積が進んでおり、作期分散のため「あきたこまち」の後に収穫できる早生品種の導入が検討されたが、作業受託の早期栽培「コシヒカリ」と収穫作業が競合することが問題となっている。そこで、本事業では作期分散を図るため、成熟期が「コシヒカリ」より6日遅い中晩生品種「とよめき」の導入に取り組む。

新品種・新技術等の概要

水稻中晩生品種「とよめき」は農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所で育成され、平成27年に品種登録された。

● 品種特性

- ・出穂期は「コシヒカリ」より3日早く、成熟期は「コシヒカリ」より6日遅い。
- ・育成地での玄米収量は、738kg(標肥)～814kg(多肥)/10aとなる極多収。
- ・耐倒伏性はやや強い。
- ・炊飯米が粘りすぎないため、加工用米としての利用が期待されている。

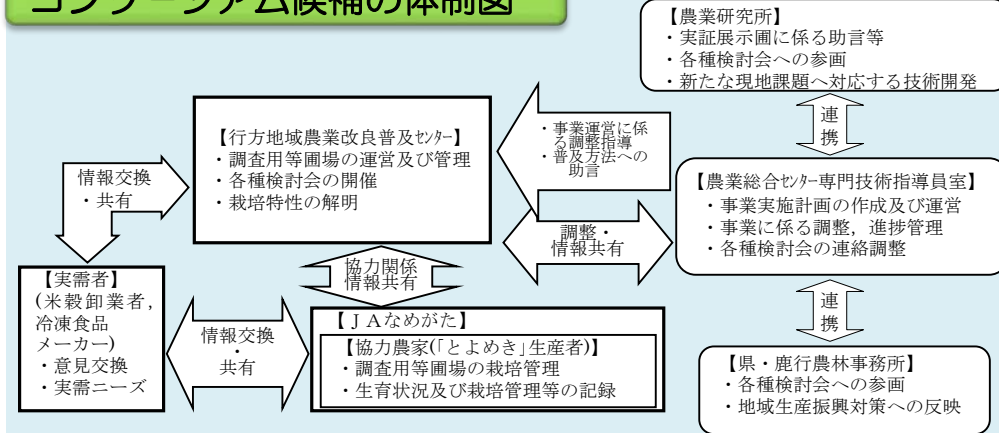


多収の「とよめき」(上)は「コシヒカリ」より穂が長い



「とよめき」(中)は耐倒伏性が強く「コシヒカリ」(左右)より稈長が短い

コンソーシアム候補の体制図



実績と今後の展開

● 取組の実績結果

- ・多収栽培試験の実収は670kg/10aで、交付金等を合わせた10a当たりの収益は「コシヒカリ」よりも約9,000円高くなった。
- ・栽培マニュアルを作成し、JAなめがたと連携し生産者へ提供することで「とよめき」の普及拡大を推進し、30年産の栽培面積は約100ha(H29:約50ha)に拡大した。

● 今後の展開

- ・実需からはさらなる増産の要望が挙がっているため、JAなめがたと連携し、多収コンテストの開催や広報誌への掲載等により生産者への知名度向上と栽培面積拡大を進める。
- ・「とよめき」は倒伏しにくい品種であるが、紋枯病による倒伏が散見されたため、紋枯病防除対策の徹底を図る。

主な取組内容

- ・実証展示圃による栽培特性の把握(収量、品質等調査)
- ・多肥栽培による収量向上(流し込み追肥試験)
- ・生産者、実需者及び関係機関による情報交換会
- ・栽培マニュアルの作成および普及拡大の推進



生産者を交えた現地検討会